

令和 8 年度 すくわくプロジェクト活動報告

テーマ「光と色」

日常生活の中に光と色に囲まれて過ごしている。あまりにも身近なことで普段は意識せず過ごしているが、光をあてたり、色を重ねたりするといった現象は、子ども達の好奇心を刺激する要素を含んでいる。すくわくプログラムを通して、子どもたちが試行錯誤して自然や様々な物に触れることで、その性質を知り「面白い」「不思議」という学びを育んでいたい。

【活動報告】

- 色混ぜあそび
- 様々な色を使ってアイスを作ろう
- 光の世界を体験しよう

育てたい子どもの姿

- 光をあてたり、色を重ねたり自分で試行錯誤を楽しむ。
- 身近な物の中で「なぜ」「不思議だな」と自ら疑問に思う事象や物との出会いを感じる。
- 「こうしたらどうなるかな？」など予測を立てることで、探求心を高める。

6月15日 色混ぜあそび



色にちなんだお話や歌が好きな子ども達。初めての色混ぜあそびにワクワクしていました。手に付けることに心配する姿もありましたが、友達の楽しむ姿を見て意欲が沸いてきました。



「赤と白で何色になるかな?」「わ~ピンクになったよ」「おいしい」「かわいいね」と、また新しい色の出会いがありました。



手のひらに絵の具を塗ると、「冷たい」「気持ちよいね」とにっこり。保育士が「青と白を混ぜると何色になるかな?」と問いかけながらお友達と手と手をすり合わせました。「あれ?白がなくなっちゃう」「お空の色に変わった」と驚きの表情でした。



この活動が終わったあとも、子ども達の会話の中で、「赤と青を混ぜたら紫だったね」「いろんな色でやってみたいね」「あれは、僕の手、私の手だよ」など活動の振り返りを子どもたち同士で楽しそうに話す姿が見られました。





7月13日 色とりどりのアイスを作ろう



水袋に絵の具をつけると、どんなことをするのか、興味津々でした。「何に見えるかな？」という保育士の問いかけには黄色は、「パイナップル」青は、「ブルーベリー」と食べ物に見立てていました。ポンポンと色を重ねたり、こすったりして、色が変わっていく様をじっくりと観察していました。



風船に絵の具をつけてアイスを作りました。色を重ねたり、こすったりして、色が変わったり、マーブル模様ができると不思議な表情を見せたり「まぜまぜきれい」と言葉を発していました。また水袋に外の光が差し込み綺麗な色水に見える発見もありました。

反省と振り返り

色混ぜあそびを通して、色が出来るまでの過程や色の作り方を知るきっかけ作りとなった。今回の活動では、混色の仕組みを体験したので、次回は色水遊びで、色水を混ぜて光を当て色の変化を発見し、素材も絵の具だけではなく、クレープ紙 食紅など様々な素材で実験していきたい。

7月17日 光の世界



色を光で照らしました。「透けて見えるね」「重なったところは、色が変わったね」「僕もやってみたい」という言葉が飛び交っていました。やってみると、様々な角度や色の組み合わせを変えて実験していました。偶然手が写り、影絵の発見もありました。お話が始まると、「映画館で見てみたい。」「明るいところで見ると綺麗に見えるね」という声もありました。

反省と振り返り

今回初めて、プロジェクターを使用してお話会をしたところ、いつもと違う空間を体感したり、普段見ている色の見え方の違いを知ったりすることができた。偶然見えた手から「影になっているね」と声のでたので、影絵遊びの活動につなげていきたい。

また何気なく生活している身近な物に光を当てて確かめていきたい。

